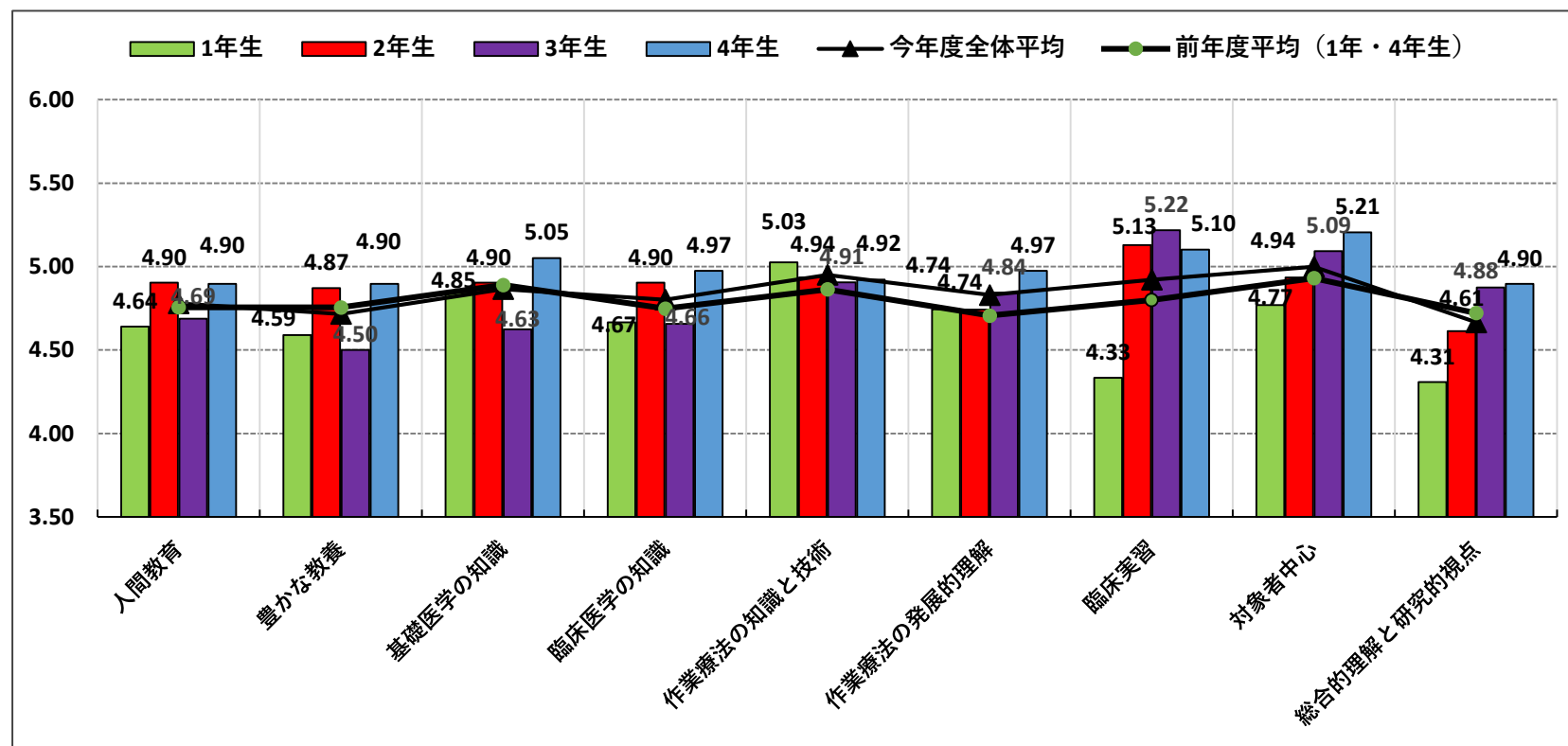


## 2020年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

### 作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年生 39名（97.5%）、2年生 31名（88.6%）、3年生 32名（80.0%）、4年生 39名（88.6%）。  
今年度は昨年度に比較し、回答率が大きく改善された。
- ・全体的な傾向・充足度合：今年度の学習においてCOVID-19の影響により、各学年に準備された臨床の場の経験に制約があり、特に1年生は現場での経験を得ることが出来なかったことから他の学年に比して低い値（4.33）であったものの、他の学年ではこの状況下でも部分的に経験できたことに対する肯定的な思いがあり、昨年度の平均値を大きく超えたと思われる。基礎医学や臨床医学などで3年生の値が低いものの、臨床実習の経験を通して更なる学習の必要性を感じた結果と思われた。
- ・前年度との比較：前年度は1年生と4年生のデータしか得られておらず、今年度の全体平均との単純な比較は出来ないが、折れ線グラフの形状より前年度と大きな差異は認められず、各項目の分布には一定の類似した傾向がうかがわれた。



## 理学療法学専攻

- **分析対象の内訳**：1年生 48名 (98.0%)、2年生 12名 (26.7%)、3年生データ 32名 (82.1%)、4年生 28名 (73.7%)。  
今年度は昨年度に比較し、回答率が大きく改善された。
- **全体的な傾向・充足度合**：8項目の多くの項目において、学年に上がるにしたがってポイントの上昇が認められることから、教育課程の編集・実施の方針は適切に満たされていることがうかがわれる。2年生に関しては、今回の調査期間中、4週間の臨床実習に参加している最中であったため、特に「臨床実習での実践力」や「自己研鑽」を含めた多くの項目においてポイントが高くなっているものと推察される。
- **前年度との比較**：前年度は1年生のデータしか得られなかったため、1年生の前年度と今年度のデータのみで比較した。その結果、前年度の学生との大きな差異は認められず、特徴的な変化や傾向は得られなかった。1年生のデータだけからの分析では適切な判断および検証が困難であるため、次年度以降の回答率も今年度と同水準に維持し、分析に生かしていけるよう取り組んでいきたい。

